

勢和小学校だより

明日も行きたくなる勢和小

～楽しく笑って過ごせるように、目標に向かってあきらめず、やって、考え、工夫しよう～



発行日：令和8年7月3日 第7号

図書・新聞との出会いが、子どもたちの世界を広げます



本校では、子どもたちが「本を読みたい」「新聞を見たい」と思える環境づくりを大切にしています。新しく入った本は、昇降口前の廊下に展示しています。表紙が見えるように並べることで、「おもしろそう!」「読みたい!」という気持ちが生まれ、足を止めて手に取る子どもたちの姿が見られます。

また、通る昇降口には、子ども新聞や子ども向け雑誌を設置しています。登校してきた子どもたちが新聞をめくりながら、スポーツや科学、動物、世界の出来事など、自分の興味のある記事を読んでいる様子も見られます。

「好きなこと」を深く知ることができるのはもちろんのこと、関心のなかった分野との思いがけない出会いがあるのも、本や新聞の大きな魅力です。一冊の本や一つの記事が、新しい興味や将来の夢につながることもあります。

さらに、本校では勢和図書館司書によるブックトークをはじめ、読書に親しむ様々な取組を行っています。本の内容を楽しく紹介していただくことで、「次はこの本を読みたい」という子どもたちが増えています。

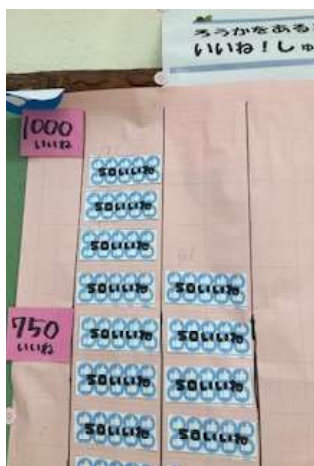
これからも、子どもたち一人ひとりの「好き」を伸ばし、新たな世界との出会いを大切にしながら、読書活動の充実に取り組んでまいります。

廊下を歩いてるね 「イイね」



校舎内での事故やケガを防ぐため、生活委員会が、廊下を歩く運動を展開しています。

廊下を走らずに歩いている人に「イイね」と書かれた団扇を見せながら「イイね」と呼びかけています。6月15日から始めたところ、初日から1000イイねを達成間近で、子どもたちが意識して行動していることがよく分かります。



廊下を走っている姿を注意するのではなく、歩いている人を価値付け、歩くことを定着させていことする取組は、今学校に求められている自己肯定感の涵養にもつながっていきます。

よりよい学びを支える授業時数の適正化に向けて

近年、文部科学省は、子どもたちの学びの質の向上と教職員の働き方改革の両立を図るため、年間授業時数を必要以上に増やすのではなく、学習指導要領で定められた標準授業時数を基準とした教育課程の編成を求めています。以下の表は、過去6年間の多気町内小学校6年生の平均授業時数です。多気町内においても、予備時数の見直しや行事等の精選を進め、教職員が教材研究や児童一人ひとりへの支援に十分な時間を確保できるよう努めています。今後も、落ち着いた環境の中、子どもたちによりよい教育を提供できるようご理解とご協力をお願いいたします。

年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
時数	1050	1048	1045	1040	1035	1026
標準時数	1015					

過去6年間の多気町内小学校6年生の授業時数の状況